
君のその笑顔がどうしようもなく好き

山岡瀬流

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君のその笑顔がどうしようもなく好き

【Zコード】

Z3602A

【作者名】

山岡瀬流

【あらすじ】

君のその笑顔が大好きです。あたしが告白して君の笑顔が消えてしまったなら、告白をなしにして？笑顔でいてね？

笑顔

キミの笑顔は太陽のように眩しくて、
街灯よりも明るくて。

その笑顔は、あたしの口を簡単につらつといく。

ずっと笑顔でいてね？

「好きっ・・・！」

あたし、今告白してる。この14年の人生で、したこともなれば、されたこともない・・・でもその、キミの笑顔が誰かのモノになってしまったら・・・そう思つと抑えきれなくて、勢いなんかで告白なんてしちゃつて。ナーヤツテンドロ。

「えっと・・・ホントにお前の事をよく知らねえし・・・」

やつぱり・・・だめなんだよ。初告白でOKもらっちゃったようなんてうまくいくわけなくて。今のあたしなり、当然の結果だと思つてた。

「あ・・突然告白なんて、ごめんね。迷惑・・だつたでしょ」

やだ。やめてよ。そんな顔しないで。笑つていてよ。いつもの笑顔は？どこへいったの？

コクハクナンテシナキヤヨカツタ。

君が笑わなくなるのならば。

「・・・じゃあ、約束ね！」

えつーとした顔で君はこいつを見た。一瞬でも目が合って嬉しかった。

「ずっと・・・笑つていてよ。あたしは、笑顔が好きなんだよ・・・？」

溢れてしまいそうな涙を必死にこらえた。

泣いたら・・・君の笑顔は消えてしまいそุดだから。

「わかった・・・本当にめんな

あやまんないでよ。今約束したじゃない。

「じゅあねつ」

こうえてた涙も限界で、こんな顔見せれないから、笑顔でさよなら。
そして、走る。それで泣いた。

誰よりも君が好きです。

口々口で叫ぶ。

「続きあんだけどー」

君はあたしを呼びとめた。

「友達になろうつよ」

といえず、
一步前進？

(後書き)

初短編です。ドキドキしましたが、一生懸命頑張りました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3602a/>

君のその笑顔がどうしようもなく好き

2010年12月30日04時14分発行